

(特非) たてやま・海辺の鑑定団

南房総館山沖ノ島の海辺を「守り」「伝える」ための仕組み強化による環境保全・再生の普及啓発活動と実践活動

活動地域  千葉県館山市



沖ノ島森の再生活動での集合写真

課題

沖ノ島では、特に夏季の来訪者によるマナーやゴミ問題、一方台風などによるアマモ場の減少、森の倒木、「環境保全・再生」と「活用」の「仕組み強化」が課題となっている。

目標

沖ノ島の保全・再生と活用を両立する。「普及啓発活動」により「大切さ」を共有し、持続可能な「仕組み」、常に管理ができる体制を構築し、自然環境を次世代に継承する。



今後の
展望

沖ノ島の森の再生には少なくとも50年かかると考えている。それは未来の森里川海の繋がりを考えるきっかけとなる。また、目標に近づくことは地域循環共生圏(ローカルSDGs)に資する活動となる可能性がある。

ひろげる助成

2年目

実践

活動内容と成果

仕組み強化：新型コロナウイルス禍で沖ノ島が閉鎖となってしまうが、身近な無人島猿島への視察を6人で行った。

普及啓発：沖ノ島は閉鎖ではあったがシンボルマークを活用したツール(Tシャツ・ガイドブック)開発を行った。臨機応変な対応により近隣の大賀海岸で活動を行い156人が参加した。感染症対策を実施した上、里海博2020を開催し236人(オンライン含む)が参加した。

実践活動：アマモ場再生と同時に、NPO連携により森の再生活動に着手、新型コロナウイルス禍ではあったが、地元消防団、ボランティア、高校生など延べ約365人の協力を得た。



沖ノ島宇賀明神のご神木の倒木更新の様子

森の再生に着手した面積 **3,000㎡**

里海博2020参加人数 **236人**

今年度計画の達成度 **60%**

目標達成度 **55%**

苦勞した点と工夫した点

■苦勞した点

台風を引き続き、新型コロナウイルス禍となり、多くの活動が思うようにできなかったが、森の再生活動では、改善が進み成果が上がった。

■工夫した点

新型コロナウイルス禍で、沖ノ島が閉鎖となり、普及啓発ができない状況であったが、映像コンテンツに作成を切り替え着手することができた。

〒294-0034
千葉県館山市沼979番地
電話：0470-24-7088
E-mail：info@umikan.jp
HP：http://umikan.jp/

